

aimer の直接目的補語位置に 置かれた quand 節の働き

山 本 香 理

0. はじめに

本稿の目的は、次の例に示す動詞 *aimer* の直接目的補語の位置に見られる *quand* 節の働きを明らかにすることである。

(1) *J'aime bien quand tu me parles . . .*

(A. Gavalda, 2004, *Ensemble c'est tout*)

従来の研究の中で、このような *quand* 節は *aimer*, *voir*, *remarquer* といった特定の動詞が従えると述べられてきた⁽¹⁾。そして *quand* 節はそれらの動詞の直接目的補語であるとされ、状況補語とは区別されてきた。その際に *que* 節との競合関係が指摘されることがあった⁽²⁾。

従来の研究に倣い、我々も *quand* 節を *aimer* の直接目的補語であると考え。しかし、従来の研究ではどのようにして直接目的補語の機能を果たすに至っているかは明らかにされていない。また、*quand* 節と *que* 節の使い分けについて正面から扱った研究は我々の知る限りでは、皆無に等しい。そこで以下では、関連研究の記述や使用実態の観察⁽³⁾とインフォーマント調査の結果に基づいて⁽⁴⁾、まず *quand* 節の統語的特徴を考察する。次に *quand* 節と *que* 節の使い分けを明らかにする。

1. 直接目的補語か状況補語か

既に述べた通り、我々は *quand* 節を *aimer* の直接目的補語であると考え
る。以下では、次の統語テストの結果に基づいて、この仮説の妥当性を示すこ
とにする：

| | | | | |
|----------|---------|-----|-----|-----|
| (a) 削除 | | (a) | (b) | (c) |
| (b) 移動 | C. O. D | - | - | + |
| (c) 代名詞化 | C. C | + | + | - |

1. 1. 削除

周知の通り、直接目的補語は動詞にとって統語的・意味的に必須の要素であ
り、単独の発話で削除することは難しい。(2) で示すように、*quand* 節に関
しても同じことが言える。しかし、(3) のように、文脈の支えがある場合は
quand 節の非表示が可能になる。

(2) a. Il déteste *quand on parle comme ça*.

b. ??Il déteste. (Leeman 2002 : 78)

(3) -Tu aimes *quand il te parle*?

-Oui, *j'aime bien*.

1. 2. 移動

一般的に、直接目的補語は動詞に後置され、他の位置に移動することは難し
いとされている⁽⁵⁾：

(4) a. *J'aime bien quand tu me parles . . .*

(A. Gavalda, 2004, *Ensemble c'est tout*)

b. ??*Quand tu me parles, j'aime bien . . .*

(5) a. Je ne sors plus guère, mais *j'aime quand on me promène dans
mon quartier.* (Le Progrès, 25/4/2009)

- b. ??Je ne sors plus guère, mais *quand on me promène dans mon quartier*, j'aime.

次の表から明らかなように、*quand* 節は一般的に *aimer* に後置される。しかし *quand* 節が文頭に置かれている例が 1 件のみ認められた。ただし、文頭に置く場合は (6) のような「対比」といった特別な文脈が必要なようである：

| | |
|-----------------|-----|
| <i>aimer</i> の後 | 134 |
| 文頭 | 1 |

- (6) Johana me fait rire, et son Christian, et *quand ils se disputent*, j'adore et *quand ils se réconcilient*, j'aime bien. (*système 1-0*)⁽⁶⁾

1. 3. 代名詞化

状況補語として機能している (7) の *quand* 節は *ça* で置き換えることができない。一方、(8) のような直接目的補語である *quand* 節は *ça* で置き換えることができる。

- (7) a. J'aime *quand j'ai fini mes courses*, prendre un café et regarder le mouvement. (*Midi Libre*, 21/2/2010)
 b. *J'aime *ça* (= *quand j'ai fini mes courses*), prendre un café et regarder le mouvement.

- (8) a. J'aime bien *quand tu me parles*.
 b. J'aime bien *ça* (= *quand tu me parles*).⁽⁷⁾

また、直接目的補語は *qu'est-ce que* の疑問の対象になる。そのことから、*quand* 節を用いた (9 c, d) のように答えるためには *quand* による疑問文 (9 a) ではなく、*qu'est-ce que* を用いた (9 b) が適当である：

- (9) a. **Quand est-ce que tu aimes?*
 b. *Qu'est-ce que tu aimes?*
 c. J'aime bien *quand tu me parles*.

- d. *J'aime quand on est tous ensemble, autour d'une table à discuter.*

1. 4. まとめ

3つの統語テストから、*aimer* の従える *quand* 節は直接目的補語であることが明らかになった。次の第2章では *quand* 節と *que* 節の差異について考察する。

2. *quand* 節と *que* 節の使い分け

従来の研究の中で、*quand* 節と *que* 節が等価であると指摘されることがある。確かに、両者は共に直接目的補語であり、競合関係にある例も認められるが、*quand* 節と *que* 節は異質のものである。というのも、*quand* 節を用いる場合は、*aimer* の主語や時制について制約が認められるからである。以下では、各形式を用いる際の制約を明らかにしつつ、*quand* 節と *que* 節の使い分けについて考察していく。

2. 1. *quand* 節を用いる場合

2. 1. 1. 主節内にみられる制約

次の表から、*quand* 節を用いる場合は *aimer* の主語と時制について傾向と制約があることがわかる。

(10)

| | PRS | IMP | P. C. |
|----|-----|-----|-------|
| je | 92 | 13 | 4 |
| IL | 16 | 4 | 1 |
| on | 2 | 0 | 0 |
| tu | 2 | 0 | 0 |

Grevisse (2007) は *quand* 節を用いる場合の主語は発話者であると指摘し

ている。*aimer* が主語の心的状態を表すという特徴から、主語が発話者であるという傾向を帯びることになるのだろう。しかし、主語が発話者以外の例も認められる。

- (11) –Toujours le dernier mot, pas vrai? Comme ton père . . .

Camille se figea.

– Ah! *tu n'aimes pas quand je te parle de lui, hein? déclara-t-elle triomphante.* (A. Gavalda, 2004, *Ensemble c'est tout*)

- (12) Je secoue la tête. Je souris. Je sais que les chefs, *ils aiment bien quand on sourit.* (R. Merle, 1974, *Derrière la vitre*)

さらに、時制に関しては興味深い傾向が認められた。*quand* 節を用いる場合の *aimer* の時制は現在形、半過去形、複合過去形に限られる。

- (13) *Elles marchent dans des herbes très hautes.*

Reinette : Attention! Il y a des chardons là.

Mirabelle : *J'aime bien quand on laisse pousser les herbes comme ça! C'est tellement plus beau!*

(E. Rohmer, 1986, *4 aventures de Reinette et Mirabelle*)

- (14) – Il serait certainement content s'il t'entendait. Tu étais son seul ami, tu sais.

– Mais il était mon seul ami lui aussi, je n'ai jamais eu et je n'aurai jamais d'autre ami que lui.

– C'est pour ça que *j'aimais* beaucoup quand nous étions tous les trois. (H. Murakami, 1987, *La Ballade de l'impossible*)

- (15) *J'ai bien aimé* quand elle m'a dit que ces chaussons étaient trop jolis pour l'enfant d'une ouvrière. (A. Cohen, 1938, *Mangeclous*)

後で詳しく述べるが、*quand* 節を用いる場合は、未来形と過去未来形を用いることはできない⁽⁸⁾。その場合は *que* 節を用いることになる。

- (16) «2010, nouvelle année, meilleurs vœux et bonnes résolutions»

- a. *J'aimerais que le monde soit plus stable, surtout pour les jeunes.*
(*Le Progrès*, 1/1/2010)
- b. **J'aimerais quand sera plus stable, surtout pour les jeunes.*
- (17) a. *Pourquoi t'en vas-tu toujours quand on pourrait être ensemble?*
J'aimerais que tu viennes.
(E. Rohmer, 1974–1999, *Six contes moraux*)
- b. **J'aimerais quand tu viendrais.*

2. 1. 2. *quand* 節内に認められる制約

周知の通り, *aimer* が *que* 節を従える場合は, 原則として *aimer* の主語と *que* 節の主語が異なる。そして, 同一主語である場合は不定詞を用いる。

quand 節についても同様のことが言えそうである。事実, *aimer* の主語と *quand* 節内の主語が異なっている例が大半を占める。

- (18) *Bon, je vais me coucher, je te sens tendu et je n'aime pas du tout quand tu es tendu.* (M. Levy, 2006, *Mes Amis mes amours*)

ところが, *quand* 節内の主語と *aimer* の主語が同一である場合であっても *quand* 節を用いることができる。このことから, *que* 節とは異なり, *quand* 節と不定詞の選択は任意的であると言えそうである。

- (19) *J'adore repousser mes limites, me donner à fond. J'aime quand je suis sur le tapis : j'oublie le stress et la pression. Ce qui me plaît dans le judo, ce sont ces sensations.* (*Sud Ouest*, 15/3/2005)
- (20) «*J'adore le théâtre. Ça me fait . . .*» Elle hésite. «*Ça me fait du bien, ça me fait des frissons!*» «*J'aime quand j'entre dans le personnage*», ajoute Aurélie. (*L'Est Républicain*, 19/12/2009)

次に *aimer* と *quand* 節内の時制について見てみよう。従来の研究にあるように, *quand* は二つの事態が同時性 (*simultanéité*) の関係にあることを示す関係辞である。直接目的補語位置に置かれた *quand* に関してもこの原則が

守られている。*quand* 節を用いる場合は次の時制の組み合わせが確認できた：

(a) 同一時制である場合

(21) *Le problème, c'est que j'adore mon travail et j'aime quand il est bien fait.* (Ouest France, 10/8/2009)

(22) *"J'aimais quand nous partions à plusieurs en forêt, nous avions le temps d'admirer la nature et de papoter.*

(Reuters – Les actualités en français, 18/2/2006)

(23) *J'ai bien aimé quand on a appris à tirer avec un Famas.*

(L'Est Républicain, 26/2/2009)

(b) 時制が異なる場合

aimer と *quand* 節内の時制が異なる場合であっても、二つの事態が同時性の関係にあることは変わらない。例えば (24) の *aimer* と *quand* 節内の事態は部分的同時性の関係にある。つまり、複合過去形によって過去の出来事として提示された *aimer* に対し、半過去形を用いた *quand* 節はその出来事を取り巻く状況として提示されている。

(24) *J'ai trouvé que les chanteurs avaient bien répété. J'ai aimé quand ils chantaient tous ensemble. Cela me plaisait beaucoup.*

(Le Progrès, 7/2/2009)

次の例は同時性の原則が守られていない反例のように思われるかもしれない。しかし *quand* 節内で言及している事態は過去の過去の出来事ではなく、完了した出来事の結果状態である。

(25) *Chez Frapin, nous ne commençons à distiller qu'au 1^{er} décembre.*

J'aime quand les vins ont pris un coup de froid. Cela donne de meilleurs résultats. (La Charente Libre, 21/4/2009)

最後に、*quand* 節内で言及されている事態のタイプについて見てみよう。*quand* 節内での使用が不自然である事態として、時間的・観念的な差異を話

題にすることが出来ない事態がある。例えば、普遍的真理や恒常的性質が挙げられる。

- (26) a. ?*J'aime quand le soleil se lève à l'Est.*
 b. ?*J'aime quand la terre est ronde.*
 c. ?*J'aime quand tu as les yeux marrons.*

2.2. que 節を用いる場合

上で指摘したように、**quand** 節を用いる場合は、*aimer* の主語や時制について制約が認められる。一方、**que** 節を用いる場合は、次の表から確認できるように、そのような制約は課されない。

(27)

| | PR | IMP | PQP | FUT | Cond. PR | Cond. PAS |
|------|----|-----|-----|-----|----------|-----------|
| je | 87 | 9 | 0 | 6 | 206 | 25 |
| tu | 2 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 |
| IL | 28 | 8 | 2 | 0 | 13 | 14 |
| on | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 |
| nous | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 1 |
| vous | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| ILS | 11 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |

また、**que** 節内では時間的・観念的な差異を話題にすることができない事態でも可能である。

- (28) a. *J'aime que le soleil se lève à l'Est.*
 b. *J'aime que la terre soit ronde.*
 c. *J'aime que tu aies les yeux marrons.*

次に **quand** 節と **que** 節が競合関係にある例を見ておこう。

- (29) – *Je me demande où passe l'argent que je te donne, a dit Papa.*
 – a. *Ah! j'aime bien quand tu me dis ça, (. . .).*

(Sempé / Goscinny, 1994, *Le Petit Nicolas a des ennuis*)

b. Ah! j'aime bien *que tu me dises ça*

(30) – Je te promets, chérie, quand j'aurai gagné assez d'argent, on ira habiter Paris.

Hortense lâcha le coton et lança ses bras autour du cou de sa mère.

– a. Oh, maman, ma petite maman chérie! J'aime *quand tu es comme ça!* (K. Pancol, 2006, *Les Yeux jaunes des crocodiles*)

b. Oh, maman, ma petite maman chérie! J'aime *que tu sois comme ça!*

インフォーマントによると、*quand* 節を用いる場合は、対象となる事態が具体的な一場面 (*moment précis*) であるといった印象を受けるようである。そして発話者はそうした一場面に対する価値評価を示している。一方、*que* 節を用いる場合は対象事態に対する一般的な価値評価を示しているとインフォーマントは答えた。

quand 節と *que* 節の差異を論じる際にまず指摘しておくべき点は、叙法の違いである。従来の指摘にあるように、発話者が事態の事実性を保証する場合は直説法を選択し、事実性についての評価が中立である場合は接続法を用いる。(29), (30) で話題にしている事態は発話時点において展開している事態であることから事実であると評価できる。

当該事態が実際に生起し、その事態に対する価値評価を示す場合は *quand* 節を用いる。一方、発話者の関心が事態の事実性を示すことではなく、事態に対しての一般的な価値評価を示すことに向けられる場合は *que* 節を用いることになる。

そして、上で指摘したように、*que* 節を用いる場合は *aimer* を未来形または過去未来形で用いることができる。この2つの時制に共通する点は、対象事態は予測であり、事実性を評価することができない。そのことから、対象事態を事実性があるものとして提示する直説法をとる *quand* 節を選択されることはないと考えられる。よって未来形または過去未来形に置かれた *aimer* の

対象事態は *que* 節で表現することになる。

- (31<16) «2010, nouvelle année, meilleurs vœux et bonnes résolutions»
- a. *J'aimerai que le monde soit plus stable, surtout pour les jeunes.* (Le Progrès, 1/1/2010)
- b. **J'aimerai quand le monde est / sera plus stable, surtout pour les jeunes.*
- (32<17) a. Pourquoi t'en vas-tu toujours quand on pourrait être ensemble?
J'aimerais que tu viennes.
(E. Rohmer, 1974–1999, Six contes moraux)
- b. **J'aimerais quand tu viens / viendras.*

お わ り に

本稿では、1. で統語テストを行い、*quand* 節が *aimer* の直接目的補語であることを確認した。次に、2. で *que* 節と比較対照することにより、*quand* 節の使用条件を明らかにした。そして以下の点を指摘した：

- 1) *quand* 節を用いる場合は *aimer* の主語と時制に傾向と制約がある。主語に関しては、一般的に主語が発話者である。時制に関しては、現在形・半過去形・複合過去形に限られ、未来形・過去未来形を用いる場合は *quand* 節の使用が不可能となり、*que* 節を用いることになる。
- 2) *quand* 節を用いる場合は *aimer* の主語と *quand* 節内の主語が異なっている例が大半を占める。しかし、*aimer* の主語と *quand* 節内の主語が同一であっても *quand* 節を用いることができる。主節と従節の主語が同一である場合は不定詞を用いなければならない *que* 節とは異なり、*quand* 節と不定詞の選択は任意的であると言える。
- 3) *aimer* と *quand* 節内で言及する事態の時間的關係は同時である。
- 4) 対象事態が事実または現実性の高い事態であると認識し、その事態に対

する価値評価を示す場合は *quand* 節を用いる。一方、発話者の関心が対象事態の事実性を示すことではなく、事態に対する一般的な価値評価を示すことに向けられている場合は *que* 節を用いる。

注

- (1) 例えば Chétrit (1976) は次のように記している：

Il ressort de ces différentes remarques qu'il existe une temporelle introduite par *quand* qui remplit la fonction d'une complétive. Dans cette fonction *quand* n'est pas concurrencé par *lorsque* et les verbes qui se placent généralement à la gauche de cette temporelle complétive sont : *aimer, détester, voir, prévoir, remarquer, se rappeler*. (Chétrit 1976 : 84)

実例を観察してみると、先行研究の中で挙げられてきた動詞の以外にも *quand* 節を従える動詞が認められる。これについては Yamamoto (2010) を参照のこと。

- (2) 例えば, Van de Velde (1998), Krazem (2007 b) が挙げられる。
- (3) 映画のシナリオ, 演劇の脚本, 小説, 新聞記事, そして *Delic* (DEscription Linguistique Informatisée sur Corpus, プロヴァンス大学) の作成した会話コーパス *Corpus de référence du français parlé* を使用した。
- (4) プロヴァンス大学の学生 5 名から 15 名。以下に挙げる発話例のなかで出典を示していないものは、インフォーマントの協力を得て作成したもの。a, b のように示す発話例の場合は a がオリジナル。
- (5) *aimer* は「絶対用法 *emploi absolu de verbes transitifs*」が可能な動詞であることはよく知られている。その場合は *quand* 節は状況補語として機能しているため、削除や移動が可能であるはずである。しかし、状況補語であっても削除や移動が不自然であることがある：
- (i) Et moi, automatiquement, quand on m'aime trop, j'aime moins.
(E. Rohmer, 1984, *Les Nuits de la pleine lune*)
- (ii) ?? Et moi, automatiquement, j'aime moins.
- (iii) ?? Et moi, automatiquement, j'aime moins, quand on m'aime trop.
- (i) は対となる語彙要素を要求する «noyaux attelés par leurs valences» (Blanche-Benveniste et alii 1994) を含んでいる。つまり, (i) の *trop* は必然的にその対となる *moins* を次の文脈で要求する。この *trop* と *moins* の依存関係のため *quand* 節の削除や移動が不自然になるのである。
- (6) Sabio (2006) は直接目的補語が特定の条件下で前置することができる」と指摘している。その指摘に従えば、前置された (6) の *quand* 節は *aimer* と *adorer* の

直接目的補語として機能している。しかし *macro-syntaxe* のレベルでは *quand* 節が «*préfixe*» として機能している。そのことは *quand* 節が上昇イントネーションで終わることからも確認できる。

- (7) インフォーマント調査では、(8 a) のような発話の *quand* 節を *ça* で置き換えた (8 b) のような発話について容認するかどうかを尋ねた。
- (8) *aimer* の未来形または過去未来形と *quand* 節が共起不可能というわけではない。事実、*quand* 節が状況補語として機能している以下のような例が認められた：
- Et quand je serai moins jolie, m'aimerez-vous encore? . . . Et quand je serai vieille, tout à fait vieille, m'aimerez-vous encore? (ABU 19)

主要参考文献

- ARRIVÉ, M. *et alii* (1986), *La Grammaire d'aujourd'hui*, Flammarion.
- BENZITOUN, C. (2006), *Le fonctionnement syntaxique des constructions en quand*, Thèse, Université de Provence.
- (2008), «Qui est quand? Essai d'analyse catégorielle», *Langue française*, 158, 129–143.
- BLANCHE-BENVENISTE, C. *et alii* (1984), *Pronom et syntaxe. L'approche pronominale et son application au français*, SELAF.
- (1990) : *Le français parlé, Études grammaticales*, Paris, CNRS Édition.
- BORILLO, A. (1988), «Quelques remarques sur *quand* connecteur temporel», *Langue française*, 77, 71–91.
- CHETRIT, J. (1976), *Syntaxe de la phrase complexe à subordonnée temporelle*, Paris, Klincksieck.
- KRAZEM, M. (2007 a), «Quand le chevillage percontatif questionne les interrogatives indirectes», M. Charolles *et alii* (éds). *Parcours de la phrase, Mélanges offerts à P. Le Goffic*, Paris, Ophrys, 13–28.
- (2007 b), «La connexion sémantique des mots *qu-* dans les interrogatives indirectes», in *Les mots en qu- du français, Lexique* 18, P. Le Goffic (éd), Presses Universitaires du Septentrion, 109–136.
- LEEMAN, D. (2002), *La phrase complexe : Les subordinations*, Bruxelles, De Boeck. Duculot.
- RIEGEL, M. *et alii* (2002), *Grammaire méthodique du français*, Paris, Presses Universitaires de France.
- SABIO, F. (2006), «L'antéposition des compléments dans le français contemporain, l'exemple des objets directs», *Linguisticae Investigationes*, 29–1, John Benjamins Publishing Company, 173–182.

- SANFELD, K. (1977), *Syntaxe du français contemporain, Les propositions subordonnées*, Genève, Droz.
- SOUTET, O. (2000), *Le subjonctif en français*, Paris, Ophrys.
- VAN DE VELDE, D. (1998), «*Aimer, verbe intransitif*», in *La transitivité, Actes du colloque de Lille : La transitivité*, novembre 1995, A. Rousseau (éd), Presses Universitaires du Septentrion, 441–469.
- YAMAMOTO, K. (2010), *Le fonctionnement de quand P dans la construction Verbe quand P*, Mémoire de Master 2, Université de Provence.

——大学院文学研究科研究員——